在宅医療支援システム研究会次第

日時　令和６年１０月２９日（火）
　　１８時３０分～
場所　介護老人保健施設くろかみ　研修室

１　開　　会

２　あいさつ

３　報告、情報提供
　①「介護職員初任者研修受講生募集」の進捗状況　(高齢者支援課より)

　②「にいみ権利擁護セミナー」「ぴおーらキッチン」の案内(社会福祉協議会より)

　③ １１/９「つなげる、ひろげる、つづける　中山間地域での食支援を考えるシンポジウム」の案内　(新見医師会より)

　④　１１/２２「落語で笑って学ぶ『人生会議』」の案内(新見地域ネットワークより)

４　協議事項
　①認知症地域ケアパスについて

次回開催日
　令和 ６ 年 １１月　２６日（ 火 ）

令和６年度　にいみ権利擁護推進セミナー

楽しく学ぼう
成年後見制度

このセミナーは、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが権利や意思が尊重される地域社会づくりをめざし、判断能力が不十分な方の理解や権利擁護意識の醸成を図るとともに、成年後見制度について広く啓発することを目的に開催します。
自分や家族、地域の方のために、楽しく成年後見制度について学びましょう。

と　き　１１月１０日（日）13：30～15：30
ところ　まなび広場にいみ　小ホール

【講演】「成年後見制度の概要と今後の動向」

【講師】さきやま司法書士事務所　所長　崎山（さきやま）　晃史（あきふみ）　氏

高梁市で司法書士・行政書士・土地家屋調査士として、不動産に関する登記手続き・相談、会社登記に関する手続き・相談、後見制度に関する手続き・相談、成年後見人などの業務をしながら、様々な講演会での講師など多方面で活動されています。

【寸劇】



「楽しく学ぼう　成年後見制度」

社協職員による熱演をお楽しみに！

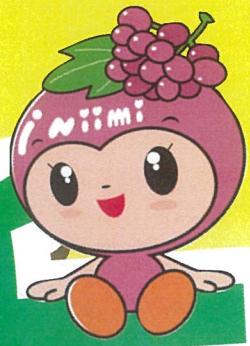
【申込・問い合わせ先】
社会福祉法人新見市社会福祉協議会

TEL　0867-72-7306
FAX　0867-71-2088
✉ syakyo-honsho-1@ex.city.niimi.okayama.jp

主催　社会福祉法人新見市社会福祉協議会　　**共催**　新見市
後援　新見市障害者自立支援協議会・新見市社会福祉法人連絡協議会・岡山県介護支援専門員協会新見支部
スマイルソーシャルワーカーズにいみ・岡山県社会福祉協議会

誰でも来て食べて遊べる。ここはみんなの居場所

ぴおーらキッチン



新見市社協イメージキャラクター
ピオーラちゃん

とき 令和6年 **12/7(土)**
午前11時～午後2時

ところ 新見市地域福祉センター
新見市金谷640-1

おいしいごはんをみんなで食べて、お腹も心もいっぱいに。ごはんのあとは、遊んだりおしゃべりしたり。知らない人とも仲良くなれる、笑顔あふれるくつろぎの場所にぜひお越しください。

ぴおーら食堂

地域食堂



わたがしもあります

参加費 無料

フリースペース

楽しもう！
＊バルーンアート
＊ボードゲーム







社会福祉法人 新見市社会福祉協議会
新見市金谷640-1 新見市地域福祉センター内
TEL 0867-72-7306

共催／新見市・新見市民生委員児童委員協議会
新見市社会福祉法人連絡協議会・岡山県栄養士会新見支部



新見公立大学NiU「鳴滝塾」X
全世代型地域包括ケア研究センター　主催

つなげる、ひろげる、つづける
中山間地域での食支援を考えるシンポジウム

2024年
11.9（土）
13:30～16:20
（受付開始13:00）
参加費無料

本学では、中山間地域の生活課題の解決に向けた実践モデル（新見モデル）の構築のひとつとして、地域ぐるみで「人生の最後まで口から食べる幸せを守る」ことを目指して「NiU-KTSMプロジェクト」を実施しています。今回、食支援に関わる人材育成の一環として、2025年４月から「摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程」（認定申請中）を開設予定です。

そこで、認定看護師の役割をご理解いただくとともに、新見の医療の現状を踏まえ、各専門職の視点から「地域ぐるみの食支援」における課題について議論を交わし、今後の方策を一緒に考えてみたいと思います。

プログラム

開会あいさつ（13:30～13:35）　公文 裕巳（新見公立大学 学長）

第一部（13:35～14:35）　座長：公文 裕巳（新見公立大学 学長）

講演１「新見市の医療の現状と課題」　講師：吉田 徹（新見医師会 会長）
講演２「摂食嚥下障害看護認定看護師の役割と活動展望」　講師：飯田 尚美
（新見公立大学 全世代型地域包括ケア研究センター）

第二部（14:50～16:15）　座長：久保 俊英（新見公立大学 健康科学部 学部長）

シンポジウム　テーマ「中山間地域での多職種連携・協働による食支援を考える」
＜シンポジスト＞
- 歯科医師 / 宮原 康太（宮原歯科医院）
- 看護師 / 上村 瑞子（長谷川紀念病院）
- 言語聴覚士 / 松本 真季（新見中央病院）
- 看護師 / 須藤 美帆（阿新虹の訪問看護ステーション）

閉会あいさつ（16:15～16:20）　小田 慈（新見公立大学 副学長）

会 場	新見公立大学　地域共生推進センター棟　講堂
対 象	新見市内に勤務する医療・介護従事者の方、地域住民の方、学生の方 ＊新見市外からのご参加も可能です。
申込方法	右記QRコードより申し込みフォームへアクセスしてください。 電話、メール、Faxからでもお申し込みできます。

＜申し込みはコチラから＞

お問い合わせ　〒718-8585　岡山県新見市西方1263-2　電話：0867-72-0634　Fax：0867-71-2337
メール：zensedai@niimi-u.ac.jp

参加申し込み用紙　　Fax：0867-71-2337

全世代型地域包括ケア研究センター主催　シンポジウム
新見公立大学NiU「鳴滝塾」X（11月9日開催）

つなげる、ひろげる、つづける
中山間地域での食支援を考えるシンポジウム

参加者名簿

団 体 名：

ご職業	参加者ご氏名	ご連絡先

ご記入いただいた個人情報については、本シンポジウムのご連絡以外では使用いたしません。

備考

※11月8日（金）までにメールまたはFAXでご返信ください。

【お問い合わせ先】
新見公立大学　全世代型地域包括ケア研究センター
（教務課内）
TEL：0867-72-0634
FAX：0867-71-2337
メール：zensedai@niimi-u.ac.jp

新見地域医療ネットワーク主催

落語で笑って学ぶ「人生会議」

ACP 人生会議

日時：令和6年11月22日（金）

14時開会（13時半開場）

15時40分閉会

場所：まなび広場にいみ　小ホール

定員：先着200名

講師：生島清身（いくしまきよみ）

行政書士

社会人落語家（天神亭きよ美）

参加無料

事前申込必要

11/15㊎までに
お申し込みください



着物好きが高じ、プロの噺家に上方落語を習う。行政書士開業後、遺言・家族をテーマとした落語「天国からの手紙」を創作、落語講演を始める。法律の専門家＋社会人落語家＋不妊治療経験者という3つの個性を組み合わせて、言いにくいことも笑いに包んで優しい語り口で伝えている。

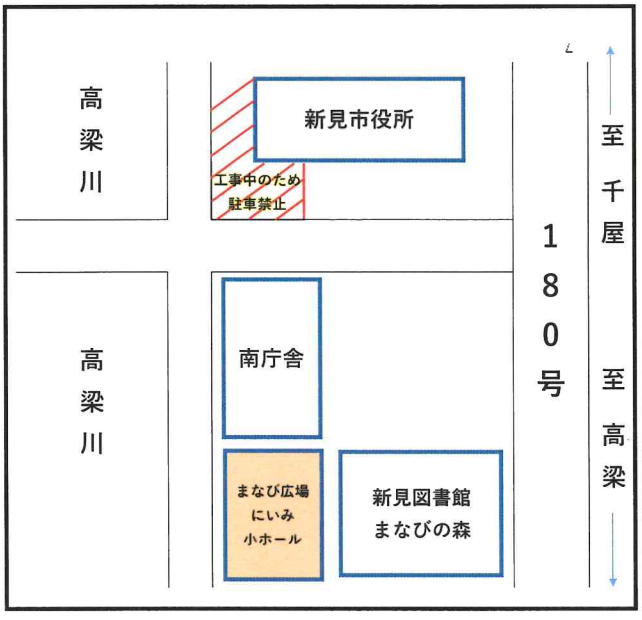
↓お申し込みはこちら↓

新見市地域包括支援センター

TEL：0867-72-6209

メール：hokatsu@city.niimi.lg.jp

メールは右の二次元バーコードからお進みください。



問い合わせ先：新見市地域包括支援センター☎ 0867-72-6209

認知症になっても安心して暮らせるまち にいみ



チェックしてみましょう

自分のもの忘れが、気になりはじめたら…

自分でチェック

変化はゆっくりと現れることが多いので、
1年前の状態と現在の状態を比べてみるとよいでしょう。

- □ものをなくしてしまうことが多くなり、いつも探し物をしている。
- □財布や通帳など大事なものをなくすことがある。
- □曜日や日付を何度も確認しないと忘れてしまう。
- □料理の味が変わったと家族に言われた。
- □薬の飲み忘れや、飲んだかどうかわからなくなることがある。
- □リモコンや洗濯機などの電化製品の操作がうまくできない。
- □いらいらして怒りっぽくなった。
- □一人でいるのが不安になったり、外出するのがおっくうになった。
- □趣味や好きなテレビ番組を楽しめなくなった。

家族・身近な人のもの忘れが、気になりはじめたら…

家族・身近な人でチェック

認知症による変化は、本人より周りが先に気づく場合も多いものです。
家族や身近な人がチェックをしてみましょう。

- □同じことを何度も繰り返して話したり、聞いたりする。
- □しまい忘れが多く、いつも探し物をしている。
- □曜日や日付がわからず何度も確認する。
- □料理の味が変わったり、準備に時間がかかるようになった。
- □薬の飲み忘れや、飲んだかどうかわからなくなることがある。
- □リモコンや洗濯機などの電化製品の操作がうまくできない。
- □失敗を指摘されると隠そうとしたり、些細なことで怒るようになった。
- □財布や通帳などをなくして、盗まれたと人を疑う。
- □趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった。

ひとつでも思い当たる場合はまず相談！

いくつか思い当たる場合はまず相談！

かかりつけ医などの医療機関に相談したり、
「認知症等の相談ができる窓口」（裏面）を参考に、
これからのことを早めに相談してみましょう。

☆相談窓口は、裏面を見てください



認知症の症状の変化と対応 ケアパス

認知症は原因疾患や身体状況によって経過が異なり、その人に合わせた対応や支援が大切です。



抱え込まずに、まず相談！

認知症の症状の変化	物忘れはあるが生活は自立	そろそろ見守りが必要	手助けが必要	常に手助けが必要	介助なしでの生活が困難
本人の様子	・財布の中に小銭が増える ・物忘れが多くなる ・会話の中に「あれ」「それ」など代名詞がよく出てくる ・片付けが苦手になる ・物が無くなる	・金銭管理が難しくなる ・探し物をする時間が増える ・必要な物を必要なだけ買うことができない ・同じことを繰り返し聞く ・火の消し忘れ	・薬を間違えて飲む ・たびたび道に迷う ・季節にあった服が選べない ・家電の操作が難しくなる ・生活リズムが乱れる	・トイレの場所がわからない ・道に迷って帰ってこられない ・日にちや季節がわからなくなる ・洋服の着方がわからない ・食べ物でないものを口に入れる	・自分で食事ができなくなる ・会話でのコミュニケーションが難しい ・表情が乏しくなる ・歩行が困難 ・起き上がるのに介助が必要
家族の気持ちと対応	なんとなくおかしい？と感じて不安に… 物忘れを年のせいにしやすい。悩みを抱え込んでしまいがち。 認知症カフェやサロン等に参加すると色々な情報が得られます！ ➡一人で抱え込まずに誰かに相談することが大事。その人に合った環境調整や家族の理解が今後の症状の変化に影響します。また、家族自身の気持ちも落ち着きます。		本人の行動や心理状態への対応に悩み戸惑う。 ➡周囲に隠さず話すと気持ちが楽になり、理解や協力も得られます。	症状を理解し対応が上手になってくる。しかし、本人の失敗が増え介護疲れを感じる。休みたくなる。 ➡自分のリラックスできる時間も大事にしましょう。	最後の過ごし方や看取りが心配。 ➡元気なうちに本人の意向を確認し、記録に残しておきましょう。
本人や家族がやっておきたいこと決めておきたいこと	地域の活動やサークル等、今までやってきたことを続けましょう。 ♥友人や地域とのつながりを大切にしましょう。 ♥地域包括支援センターや、かかりつけ医に相談してみましょう。	大事なことはメモに書き留めましょう。 ♥一日の計画を立てて行動してみましょう。 ♥外出の機会を持ちましょう。 ♥本人の話をじっくり聞きましょう。 ♥これからについて一緒に考えましょう。	♥できることは続けましょう。 ♥大変なことは、周りの人に手伝ってもらいましょう。 ♥周囲との関わりを持ち続けましょう。 ♥施設での生活を希望する場合は早めに見学しておきましょう。 ♥将来に備えて、成年後見制度等の利用について検討しましょう。		**対応のポイント** ・ゆっくり短い言葉で少しずつ伝えましょう。 ・説得や否定はせず、気持ちを受け止めましょう。 ・手をにぎる、背中をさする等スキンシップをとり、安心させましょう。
介護保険	普段から相談できるかかりつけの医療機関を決めておきましょう。 申請の相談	介護認定の取得、介護サービスの利用			



認知症の方や家族への支援体制

予 防
介護予防、日常生活支援総合事業
認知症サポーター養成講座

介 護
ホームヘルプサービス、デイサービス
ショートステイ、小規模多機能型居宅介護など

地域での支え合い
老人クラブ、地区のサロン
認知症カフェ・サロン、認知症サポーター

医 療
かかりつけ医、歯科医、薬局
認知症初期集中支援チーム
認知症疾患医療センター
訪問歯科診療、訪問薬剤師、訪問看護

相 談
新見市地域包括支援センター、新見市高齢介護課
新見市在宅医療・介護連携支援センターまんさく
さきがけクリニック、さきがけホスピタル
ケアマネジャー、民生委員



住まい
認知症グループホーム、介護保険施設など



生活支援
配食サービス、移送サービス、成年後見制度





詳しいサービスを紹介した冊紙があります。新見市ホームページからダウンロードできます。また、新見市地域包括支援センターでもお渡しいたします。

認知症は早期診断、早期対応が大切

認知症は高齢期にもっともかかりやすい病気の１つです。
令和７年には５人に１人が発症するといわれています。
「認知症になるのを遅らせる」、「認知症になっても進行を緩やかにする」ために早期発見、早期対応が非常に大切です。

（認知症施策推進大綱より）

認知症に関する相談は

新見市地域包括支援センター　電話:(0867)72-6209

新見市在宅医療・介護連携支援センター
まんさく（介護老人保健施設くろかみ内）　電話:(0867)88-8270

岡山県認知症疾患医療センター
（さきがけホスピタル内）　電話:(0866)22-8300

認知症サポーターになりませんか?

認知症はいつ自分や家族、知り合いがなるか分かりません。
認知症について正しく理解し、認知症の人や家族に対して温かく見守ったり、困ったときに手助けしたりしてくれる方が増えると、ご本人やご家族は安心して過ごすことができます。認知症サポーター養成講座を受けて、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」になりませんか？

例えば

- ゴミ出しが難しくなっている人にゴミ出しの日に声をかける
- 趣味が続けられるようにサポートする
- 買い物に行く時に誘っていく
- 地域の行事に一緒に参加する

など

認知症サポーターになるには?

「認知症サポーター養成講座」（１時間～１時間半）を受講すれば、どなたでもなることができます。職場、町内会など10人程度集まる場があれば、講座を開催させていただきます。開催日等の相談については、新見市地域包括支援センター（電話 72－6209）にお問い合わせください。

認知症カフェに行ってみませんか？

- お茶を飲みながらおしゃべりをして情報交換ができます。
- 介護や医療の専門家が講師になっての勉強会があります。
- 困りごとや制度についてなど気軽に相談できます。
- ゲームやイベント等の活動をすることで認知症予防になります。

○開催場所や日時については、新見市地域包括支援センターへお問い合わせください。

令和３年度　認知症ケアに係る医療連携体制整備事業
一般社団法人　新見医師会　発行

「認知症ケアパス」とは、

認知症の方の状態に応じた適切なサービス提供の流れを地域ごとにまとめたものです。 認知症の方やそのご家族が、「いつ」「どこで」「どのような」医療・介護サービスを受けることができるのかが分かりやすく示されています。

認知症ケアパスは、厚生労働省が 2012（平成 24）年 に発表した「オレンジプラン（認知症施策推進 5 か年計画）」で初めて紹介され、2015（平成 27）年策定の「新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）」にも受け継がれました。

現在は多くの自治体で認知症ケアパスの作成が進められています。各市区町村が地域の実情に応じて作成しているため、具体的な内容はお住まいの地域によって異なります。なお、認知症ケアパスをまだ作成していない自治体もあります。

「認知症ケアパス」の内容例

◇困ったときの相談先一覧

認知症ケアパスには、認知症が心配な方やご家族、身近な方などが困ったときの相談窓口が掲載されています。疑問や不安を感じたときは、おひとりで抱え込まず早めに相談しましょう。

◇認知症の基礎知識

認知症は原因となる病気によってさまざまな特徴があり、対応方法もそれぞれ異なります。
周りの方が正しい知識を得ることは、ご本人の快適な暮らしにつながります。ご家族の心にもゆとりが生まれ、今後の生活について前向きに考えられるようになるでしょう。

◇認知症の方への接し方

認知症の行動・心理症状（BPSD）は、適切な対応によって和らぐこともあります。
多くの自治体では、認知症の方と接するときの心構えやポイントなどを、イラストとともに分かりやすく解説しています。ご家族はもちろん、ご近所の方やボランティアの方などが「こんなときどうすれば？」と困ったときに役立つでしょう。

◇認知症チェックリスト

「もしかして認知症なのでは？」と気になる方のために、早期発見のためのひとつの目安としてチェックリストを掲載している市町村があります。

他の病気と同じように、認知症も早期発見・早期治療がとても大切です。早めに気づいて適切な治療を受けることで、改善が期待できるものもあります。また、認知症の治療薬で進行を緩やかにすることができる場合もあります。

◇介護・医療・福祉等のサービス一覧

認知症ケアパスには、認知症の症状に応じたサービスや知っておきたい制度などの情報がまとめられています。

ご家族だけで認知症の方を介護するのはとても大変です。介護保険や総合事業などのサービスを積極的に利用し、介護負担をできるかぎり減らしましょう。

◇地域住民が取り組む活動の紹介

認知症カフェや認知症サポーター、介護者の集い、ボランティアなど、地域の住民が取り組んでいる活動が紹介されています。

認知症の方やそのご家族は外出の機会が減り、孤立してしまいがちです。認知症になっても、できることや得意なことを活かせるような場所を探してみましょう。ご家族も介護者同士の交流の場で気持ちを分かち合ったり、情報を共有したりすることが、リフレッシュや不安の解消などに役立つでしょう。